

## 令和7年度「地区別プラン策定」に関する意見交換会 大谷地区 協議記録

日 時	2025 年 11 月 10 日（月） 18:00～19:40
場 所	大谷小中学校 体育館

参加者： 55 名

### 【開会のあいさつ】

丸山区長会長：

本日は復興に関する意見交換を行うため皆さんにお集まりいただいた。震災から2年が経つ。復旧は進んできたが、町並みは殺風景になった。この町並みを元に戻すことは無理だと思うが、できるだけ皆さんが住みやすい形に復興していかなければならないと思っている。皆さんの思いを発言いただき、本当に住みやすい復旧・復興を進めたい。よろしくお願いします。

川端市議会議員：

一昨日はこの場所で文化祭を行ない、とても好評だったと感じている。私も現在、大谷地区内の懇談会を開催しており概ね終了しているが、本日は地区別プラン策定に関する意見交換会として、道路復旧などの現況、復興公営住宅の説明をいただく予定である。直接対面する場で、大事なことを伝え、聞きたいことを質問してほしい。有意義な会となることを祈念する。

市長：

本日は、林野庁、石川県土木事務所にも出席いただき、本来であれば夏から秋にかけて実施を考えていた、土砂災害の対策工事、道路復旧の見通し等についても説明するとともに、地区別プラン策定に関する意見交換会を行いたい。

公費解体は進んでいるが、反面、町並み、町の景色が大きく変わっている。「新たなまちのかたち」をどうしていくか、昨年度から各地区において議論を重ねていただいている。大谷地区においては「外浦の未来をつくる会」の皆さんも議論を進めていただいている。

これだけ大きな被害を受け、尊い命も失われた。災いを転じ、より安全で、快適なまちにしていく。また人口減少を抑えていくためにも、迅速に復旧を進め、安定した住まいを提供する。そして、より魅力ある最先端の復興を成し遂げることが重要であると考えている。

能登半島地震発生から2年になる。大谷地区における、これからの復興に向けたプランを固め、具体的に進めていくことが何よりも重要である。復興公営住宅をどこで、どのように整備するか、皆さま方と話し合いたい。誠に申し訳ないが、大谷小中学校グラウンドの応急仮設住宅は、意向調査において賃貸住宅に転用した際の入居意向も聞いているところであるが、石川県から構造上の理由で賃貸住宅への転用ができないと説明があった。そのため、復興公営住宅をしっかりと整備したい。

## 【資料説明】

### 資料1 復旧・復興箇所図

## 【参加者からの意見】

参加者：

道路インフラの関係で聞きたい。大谷町第3区内の小鮎山集落であるが、集落へ行く道路の路肩、ガードレールが崩落しており、カーブで急傾斜のため危険である。雨が降るたび、崩れているようにも感じる。図面では復旧が令和9年度からであるが、1年半以上このままなのか。雪が降り、車が落ちようなことがあると、10m以上の落差があり命の危険もある。対策をお願いしたい。

珠洲市：

ご指摘の区間は令和9年度に工事着手予定であるが、これから除雪車も走る。ブルーシートを斜面に張ることや、ガードレールの設置は難しいが、夜間でも見えやすいような応急対応を行う。

参加者：

以前、県から崖崩れ対策、崩落対策の説明があつたが片岩から真浦までの崖崩れ対策は、道路と同様、国の権限代行という理解でよいか。

石川県：

能登復興事務所が権限代行で工事を進めている。応急復旧から始めており、今後本格復旧に進む予定である。

参加者：

復興公営住宅に関して伺いたい。意向調査の集計中であることは承知している。来年は3年目に入る。避難している人は金沢で家を購入したり、みなし仮設のアパートを出て自分で用意したマンションに移り住んだりしていると聞いている。整備する箇所は10戸以上が目安と聞いているが、知事は「被災者に寄り添う」と言っている。1戸でも整備いただけるのか。

市長：

できるだけ地域の要望に合わせて整備したいが、1戸、2戸では難しい。せめて5戸以上集まれば整備の検討ができる。長引くほど、住みたいと思っていても諦める方が増えるため、できるだけ早く進めたい。

参加者：

復興公営住宅の入居要件は、仮設に入っている方、みなし仮設に入ってる方など、自宅の再建が難しい方と聞いている。対象となる方は限定される。どこかの時点で、仁江には整備する、整備しないの線引きが必要かと思う。

市長：

各地区における復興公営住宅の整備について意向調査を進めている。年内には市内全域において、整備する場所、戸数を示したい。

珠洲市：

復興公営住宅整備方針に示した通り、10戸以上が原則である。市長は5戸を目安に、より地域の要望にお応えしたい考えだ。集計結果を基に検討する。

丸山区長会長

道路の話に戻る。小鮎山近くの県道について、河岸が崩れて通行できる場所がかなり狭くなっている場所がある。三角ポールが置いてあり夏場はよいが冬場は危ないと思う。去年は事故なく過ぎたが、雪が降って道路がよく見えなくなった時に、滑って落ちる可能性がある。工事予定が分かっていたら説明いただきたい。

石川県：

上黒丸・大谷線は権限代行ではなく、石川県が復旧工事を行う。昨年は、大谷峠が通れないため迂回路の位置づけで、国が部分的に広げるなどの工事を行っていた。今ほど話があったところは、去年大きく崩れ土のうで抑えているが、狭くなったままになってる。この冬までに、安全施設も含め補強したい。

参加者：

3月に仮設住宅に入居し、自宅の解体はスムーズに終わった。その後、夏にかけて雨が降ると山から土砂が流れ、国道まで流れ込むことが何度もあった。道路管理者に撤去をお願いしたが、順番に進めているという説明で対応は後回しになった。家を改修し住もうと考えていたが、安心して住み続けられるか不安である。家の付近の道路はボランティアの協力もあり泥の掻き出しができたが、国道まで車で出られないこともあった。復旧工事の予定も重要であるが、困ったときに迅速に対応いただきたい。烏川から回る道も崩れており、信号が何箇所もあり水も流れている。冬の間や、雨の時、緊急対応ができるのか。対策を考えていただきたい。

大谷の仮設住宅に暮らしていると思うのは、芸術祭を通じて収集した文化財や、地震後に文化財レスキューで集まったものが、放置されており活用されていないことである。調査や保存など、仮設に住んでいる人も手伝うことができるのではないかな。うまく活用して、元気ができるような取組みにつなげたい。

大谷から仁江にかけての産業は塩田だけである。産業が無いと誰も住まなくなる。復旧工事の方も工事が終わればいなくなる。道路をきれいにしても住む人がお年寄りばかりになる。道路復旧に加え畑もきれいにしてもらった。なにかやろうという気持ちを進めるタイミングだと思う。

道路や側溝の土砂撤去は人力では難しい。重機が必要である。住民に貸し出す組織や仕組みがあるとよい。野菜をつくって分け合ったり、売ったり、住民が一体となれる取組みが必要だ。仮設に入って安心できるのは、みんなで居るからであり、病気になっても大丈夫だと思う。一人だと不安になると思う。

市長：

病気になってもよいなどと思わず健康に気をつけていただきたい。迂回路の大谷峠も大きな雨が降ると土砂が流れてくる。国の権限代行で対応いただいております、能登復興事務所のほうに連絡して、都度対応いただいている。片岩の裏山も対策工事を進める必要がある。石川県の奥能登農林事務所が担当であり、連携して対策工事を進める。雨のたびに土砂が出てくることに対し、迅速に対応できるよう進めたい。

「大蔵ざらえ」で集めた古民具等をシアター・ミュージアムや元大谷保育所で、文化財として保存展示し、国立歴史民俗博物館の先生にもお願いし、分類や修繕に向け動いていただいている。道路の復旧が進まず、本格的なシアター・ミュージアムの再開は難しいが、できるだけ早く再開し、文化財の活用を

進めていきたい。

復旧が進んでも、人が居ないのではないかという話もあった。そうならないように、「外浦の未来をつくる会」と連携するとともに、日本財団の支援をいただきながら「みんなの家」の整備を進める。大谷外浦地区の活性化、復興に向け、アイデアを出していただきたい。さらに元気になるよう取り組んでいきたいと思っている。移り住んで来られた若い方もいらっしゃる。

道路や排水路の土砂は人力では難しい。重機の貸し出しはできるのか担当から説明する。

珠洲市：

地域の方が自主的に泥を掻き出すなど、地域に実行する会や組織があれば、小さい重機、運搬用のトラックをお貸しすることができる。個人の方に、畑を耕す等の目的で貸すのは難しい。

市長：

自主防災組織等であれば対応できるようなので、ご相談いただければと思う。

参加者：

資料5ページに示されているが、集落内の道路は赤く塗ってある。赤島地区も含め調査が進んでいることは聞いている。今年度の着工を進めていただきたい。

さきほども話があったが奥能登農林総合事務所が担当している土砂災害の応急対策はほぼ完了しているが、本格復旧の計画を示していただきたい。珠洲市から、そのような声があったということを伝えてほしい。

もう1点。集落の清水寄り、西側から上がる農道がある。農林事務所の担当かもしれないが、図示されていない。急カーブが中ほどにあり大規模に崩落している。集落の方の関心も高く、復旧の進め方を示していただきたい。

市長：

土砂崩れの応急復旧から本格復旧へについて、しっかりと要望する。

珠洲市：

農道については産業振興課が担当している。復旧については、市内全て応急復旧の対応を進めている。現地を確認し、本復旧できるか連絡する。

珠洲市：

片岩町の集落内道路であるが、図面では令和7年度着手になっているが、間違いであり令和8年度以降の着工となる。お詫び申し上げます。

参加者：

高屋港の付近、90度に道路が曲がっている区間に関し、発注済と説明があった。カーブを緩やかにする整備は行われるのか。

また、復興公営住宅に関し、高屋町の整備予定地の西側は能登半島で最も強い風が吹く場所である。波の音と風の音と両方で大変なストレスになる。先日市長に防風壁の整備をお願いした。この機会に再度伝えたい。高屋町全員の気持ちである。

石川県：

高屋港の90度に曲がる区間の復旧に関しては、原形での復旧を予定しており、カーブを緩くする計画はない。

珠洲市：

防風壁のことは聞いている。防風壁の整備を含め、復興公営住宅を建設する際に計画する。計画が完成したらお示しする。

参加者：

個人的なことでもあるが、権限代行で進めている大谷峠のループの箇所、国から移転に関する調査依頼が来ている。移転はやぶさかではないが、大谷では墓地も少ないなど移転に関し問題もある。墓地が土砂災害で流された方もおり、珠洲市で対策を考えていただきたい。

市長：

お墓の代替地については国交省と連携して検討する。合葬墓の整備に関するご要望もあるが、市内に何箇所も整備することは難しく、市営斎場の近辺で検討を進めている。そうすると大谷からは遠い。まずは国土交通省に確認し対応する。

丸山区長会長

仮設住宅の入居には、どの程度延長が可能なのか。当初は小中学校グラウンドの仮設住宅を賃貸住宅に転用すると聞いており、入居されている方もそのような方法を望まれていたが、構造上の問題、防火の問題があり解体すると聞いた。仮設住宅を改造し、公営住宅にしてほしいという願いは受け入れられるのか。

また、地域に人を呼び込み活性化を図りたいと考えているが、その際に泊まる場所が無いことが問題となっている。仮設住宅を仮住まいのように使うことはできないか。検討いただきたい。

市長：

応急仮設住宅にいつまで住めるかという点であるが、これまでの大規模災害の事例では、4～5年、あるいは7～8年延長しているケースもある。能登半島地震も例外にはならない。ただし入居されている方には毎年、延長願いを出していただく手続きが必要である。面倒ではあるが対応いただきたい。基本的には復興公営住宅の整備が終わるまで、応急仮設住宅を閉鎖することはない。しっかりと対応する。

仮設住宅の転用であるが、建て替えと同程度のお金と時間がかかると思われる。改修の間、仮住まいに移っていただくことも必要となる。できるだけ早く復興公営住宅を整備する方が合理的かと思う。学校横の、先日ミニフェスティバルを開催した辺りに、必要戸数を建てる面積は確保できる。そこで整備を急ぐ方がよいと考える。

また、応急仮設住宅の柔軟な活用について、石川県も国と協議を進めていただいている。2年経つと柔軟な活用が容易になる。その後、応急仮設住宅が閉鎖されるまで、家賃は発生するが活用することは可能だと思う。ただし、恒久的に応急仮設住宅が残ることはない。賃貸住宅であれば、移り住まれる方が家賃を払って活用できる。復興公営住宅についても基本3年経てば、普通の公営住宅になる。そうすると被災された方以外も住めるようになる。（低額所得者について）いろいろな方法を組み合わせ考え

ていきたい。

手続きなどについては、仮設住宅を訪問し、対応している健康サポート推進室から補足説明する。

珠洲市：

仮設住宅延長の意向調査として、自力再建の見込みなども含め、今年度も11月20日に県から調査が發送される予定である。仮設住宅の入居者は、自力再建の方法、1年の延長希望を示していただければ、住み続けることは可能である。市からの意向調査も含め、アンケートや調査に関しては必ずお返事を出していただくようお願いする。

参加者：

港の復旧について聞きたい。県の管轄である高屋、折戸の復旧は少しずつ進んでいる。この他に、船だまりと呼ばれる小さな港があり、復旧の青写真は今年の春頃見せてもらったが、大谷を除き、着工されていない。今後どのように進むのか。

珠洲市：

市が管理している漁港の復旧について説明する。長橋の大谷地区は、船を出し入れするための斜路は完了しており、年内には隆起した航路の浚渫工事を発注予定である。春までに完了したいが、天候次第では5～6月まで延びる可能性がある。その後、物揚場の整備を行う。

長橋の長橋地区は、斜路については契約が終わっている。その後、物揚場の実施設計を進める。ここも隆起しているため浚渫工事の発注を順次行う。

真浦漁港は測量がこれからである。復旧までは時間がかかると思われる。

船だまりは、地元の方と意見交換しながら進めており、仁江、清水、片岩を清水に集約する。年明けに斜路、航路の浚渫工事について発注する。泊の復旧も年明けの発注となる。

参加者：

高屋の郵便局が11月4日に開設した。ところが橋の両側に15cmほど段差が生じており通行に支障がある。緩やかにすりつける整備をお願いしたい。

珠洲市：

市道でなければ整備は難しい。確認する。

参加者：

道路の件、大谷峠についてお願いしたい。家族はかほく市にいて週末帰っている。平日はこちらで仕事をしているが、能登町桜峠から能登空港の間はアスファルトが綺麗になり復旧が進んでいる。道路の傷みはそれほどでもないが、人・モノ・金が投じられている。外浦の人にとっては大谷峠が命である。買い物、病院、仕事にも必要だ。令和11年に通行できると聞いているが、なんとか早くならないか。

市長：

大谷峠は国の権限代行であるが、一年でも早く完成するように国土交通省と調整したい。

参加者：

広報を見ると11月から市指定のごみ袋を使うことに戻った。今のまま、どの袋でもよいようにして

もらえないか。透明な袋であればゲンキーなどで無料で手に入る。検討いただきたい。

市長：

指定ごみ袋を買っていただくことで、ごみ処理費用にもなっている。ご理解をいただきたい。震災後は何が入ってるか確認できることもあり、透明なほうが都合がよかった。ごみ袋を販売してるお店も再開できなかった。丸2年経とうとしていることから、元に戻すことにした。

参加者：

冬が近づいている。旧道の除雪計画について聞きたい。除雪されないようなら仮設に行くしかないと思っている。また上黒丸・大谷線についても除雪計画を教えてください。

市長：

昨年の今頃、凍結を少しでも防ぐため旧大谷峠の道路の溝切りを国土交通省に実施いただいた。大変ありがたかった。昨シーズンは雪が少なかったが、今年はどうなるか心配している。

石川県：

国道249号の除雪は県が行う。通れない区間に関し旧道を同様に除雪する。迂回路である上黒丸・大谷線は、国道と同じレベルで除雪する。昨年と同様、5cmの積雪で出動する。

丸山区長会長：

今思いつかなくても、何かあれば私を通してでも、市に直接でもよいので、相談、質問をしていただければよい。本日の意見交換は以上となる。

市長：

長時間、寒い中ありがとうございました。これから冬に入る。雪の対応、皆さんの安全が保てるように、この冬に向けても色々と確認しながら、安全に道路を通行できるように努めていく。復興公営住宅については、説明した場所でもよろしいか。また、調査中の意向調査の回答率が上がるように訪問しながら精度を高め整備していきたい。

これからの大谷地区の活力を高めていくため、皆さんのアイデアが必要だと思う。すでに取り組みをされていることに敬意を表するとともに、これからの復興に向けた取り組みの工夫を皆さんと共に進めていきたい。

以上